

第17回政策推進会議報告

日時 12月2日(月)9時30分～10時10分

場所 4-1会議室

出席者 20人

1 平成25年度全国学力・学習状況調査報告について

教育長から資料に基づき報告。

- ・尼崎市は全国と比べ、携帯電話・スマートフォンの所持率が高いということだが、都市部はどうしても所持率が高くなると思う。全国と都市部の比較や、都市部だけの比較はないのか。確かに都市部は他と違ってくると思う。文部科学省の発表にも、都市部や地方都市という種別があったので、種別ごとの数値が明らかになっているかを調べ、参考にさせていただきたい。

(市長) 今回の調査で特に印象的だったのは、塾に行っている児童生徒数が全国と比べあまり変わらないことだ。その一方で、家庭学習用のプログラムを伊丹市教育委員会がインターネットで提供するという新聞報道もされていたが、家庭学習をしやすいサポートにおいて、工夫の余地があると感じた。

学力向上クリエイティブ事業の中で放課後の補習を行っている。今までは主に宿題をやっていたが、今後は次の段階として、家庭に帰って何を勉強したらいいのかを教えることが大事だと思う。

- ・今回の報告は公立校のデータだと思うが、私立校のデータはまとめられているのか。全国のデータとしては、公立校、私立校、全体のデータがあるが、今回比較しているものは、公立のデータである。
- ・尼崎市ではトップ層が少ないという結果だったが、私立に通っている率を全国と比べたものはないか。

小学校から中学校へ上がる際に私立校へ行く割合は尼崎市で12%弱、全国で約8%だが、都市部では割合が非常に高くなるので、全国と比べ尼崎市の割合が高いとも一概には言えない。

- ・これまでの様々な取組の甲斐あって全国平均との差がかなり縮まってきているが、学力が改善されているという点をうまく情報発信できないか。

尼崎市の学力の伸び率が大きいことは兵庫県教育委員会にも確認しているが、それ以上の詳細な数値はわからない。

- ・学校ごとに調査結果を公表してもよいことになっているが、尼崎市ではどう対応しているのか。

尼崎市では学校ごとに結果を公表し、保護者に対して説明責任を果たすようにしているが、必ずしも公表内容に点数や正答率を含めるようにはしていない。学習面、生活面、取組、家庭での取組の4点を具体的に保護者に発信するようにしており、ほとんどの学校が全校生徒に配布する学校だよりで発信している。

(市長) 正答数分布のグラフも全国の形に近づいてきたので、次の段階として、自主的な学習

をサポートすることで全体の学力の底上げをしたい。

- ・調査結果を見ると、自発的な活動において全国とだいぶ差がある。本人や学校、周囲の人を含め、自立的な力を伸ばすサポートが今後大事になると思う。

(市長)方向性としては着実に前進しており、こういった分析に基づいてさまざまな取組をしていくのは当然のこと、すでに取り組んでいることも多くの人と共有し、相乗効果があがるように情報発信をしていきたい。

2 その他

- ・顧問から、シティプロモーションサミット2013 IN 尼崎について報告。

以 上